



2023 春号 YOUR VOICE

大府市議会
無所属クラブ
議会レポート



“コロナからのリスタート元年”のスタートダッシュに向けて。

令和5年度当初予算 無所属クラブの視点は—

いよいよ今任期最後の定例会となった令和5年第1回定例会（3月定例会）が、2月24日から21日間の日程で開かれました。令和5年度当初予算など執行部提出29議案のほか、委員会提出1議案が上程、審議され、いずれも全会一致または賛成多数で可決されました。

無所属クラブは令和5年当初予算に対し、**コロナ苦境や物価高騰等、今も続く、または、これから起こり得る市民生活上、行財政上の新たなリスクにも引き続き備えを忘れない行政運営が引き続き求められる**との認識に基づき、以下の視点で精査と議論を行いました。

- ①“コロナからのリスタート元年”をどう前に進めていくのか。
- ②適正な福祉と市民サービスの堅持および充実をどう図っていくのか。
- ③これらを実現していくため、健康都市の一層の発展に向けた都市基盤の維持および整備、健全な行政経営の継続をどう図っていくのか。



令和5年度予算への討論 無所属クラブの論点 **CHECK!**

◆公共交通機関事業

MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）や無人運転といった新技術の研究なども視野に入れながら、より頼れる市民の足としていくために、事業のバージョンアップを繰り返すよう意見。

◆ウィズコロナに向けた留意点

孤独・孤立、物価高騰による困窮、感染症対策や母子保健等、回復基調の流れの中で社会全体の課題認識が薄れてしまう可能性を指摘。

◆「バイオリンの里」構想

音楽や本市のゆかりに経済、文化の格差に関係なく触れることができる事業であると評価。4年度の取組が5年度にはさらに根を張り、育っていく事業となることに期待を表明。

次々に生じる課題へ対応に追われ続けた過去3年の知見、経験を生かしながら、**人々の「生きる」を守る責務に引き続き力を尽くし、コロナからのリスタート元年として、大府市がめざすべき未来に改めてポジティブに「打って出る」チャレンジの年度として、議会での議論がそれに資するものとなっていることを心から願うと述べ、賛成としました。**

その他の議案に対する 無所属クラブの見解・意見 **賛成討論**

◆大府市人権を尊重した誰一人取り残さないまちづくり推進条例の制定

無所属クラブでも、各々が地域で悩みやお困りごとなどの多くのお声を頂戴し、それらを政策課題として受け止め、取組を行ってきた中で、虐待、いじめ、ハラスメント等々、いずれも根幹は人権そのものであると都度、感じてきたことが、まさに揺るぎないものとして本条例に提起されている点、憲法が保障しているものであっても、市としても毅然と、しっかりと取り組んでいくことが加えて示された点を高く評価。

そのうえで、**たかばとくこ**の委員会での質疑に対し、答弁で「子どもへの人権教育」がポイントに挙げられたことを取り上げ、**宮下しんご**が一般質問（中面参照）で述べた意見を改めて引きながら、「日頃の生徒指導においても、子どもたちが権利の主体として尊重され、また、その権利が脅かされない学校環境が担保されてこそ、空念仏ではない実体のある言葉として、『人権』が子どもたちの心に初めて根づいていく」と指摘しました。

2人分の経験値と、双方の得意分野を生かしながら、 会派のチームプレイで政策を提言、実現してきました。

“完全無党派”の政策チーム「無所属クラブ」を結成して約4年。政党や組織と一線を画し、一市民としての暮らしに根差した視座、地域の視点を基軸に、行政の健全な監視役としての役割を果たすため、それぞれが持ち寄った市民の多様な声と、緻密な政策調査に基づく議会での発言、提言を重視し、積極的に活動してきました。

コロナ禍の初期には、各自の着眼点

から大府市の現状と課題を話し合い、双方の得意分野の知見も生かした計18項目の提言書を市長に提出。また、定例会ごとに議会活動レポートを共同発行し、議案や施策等への賛否だけでなく、自分たちの率直な考えも可能な限りお伝えしてきました。

政党、組織のしがらみのない“完全無所属”の立場を基軸に、市民、市政への思いや理念を共有する政策チームと

して、2人分の経験値や発言の機会を最大限に生かした議会活動を、今後も活発に行っていきたいと考えています。

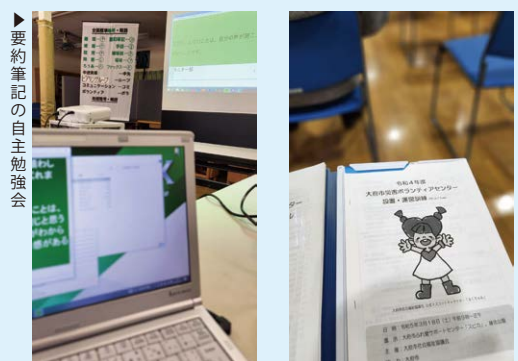


双方の考えの一致を確認し、無所属クラブ結成(2019年5月)

たかばとくこ 「もしもの時」に備えた学び



3月に市の災害ボランティアコーディネーターの登録制度が始まったので、さっそく登録。災害ボランティアセンター設置・運営訓練に参加しました。災害時には、被災者からボランティア依頼を受け付け、各地から支援に駆けつけてくるボランティアを受け入れ、被災者とボランティアの橋渡しや、サポート拠点の運営スタッフを担います。防災士、イベントコーディネーター、ファシリテーター、聴覚障がいコミュニケーション支援など、これまで培った様々な学びや経験をボランティアの一員として生かし、「もしもの時」に備えます。



▶ 要約筆記の自主勉強会

◀ 災害ボランティアセンターの設置・運営訓練

無所属クラブ 活動報告

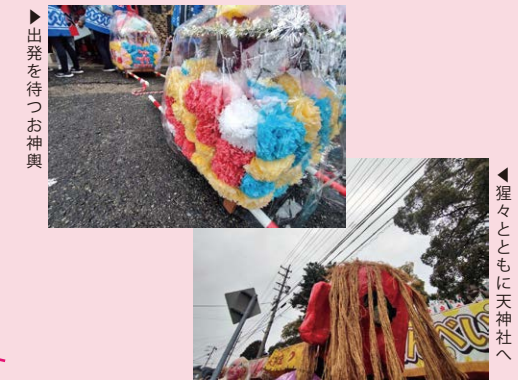
Pick up

たかばとくこ 検索



宮下しんご いざ「どぶろくまつり」へ

どぶろくまつり当日は、まず朝8時半から、2組に分かれて組内を練り歩くお神輿の片方にお供し、家々でおひねりをいただく様子を微笑ましく見守りました。公会堂に戻った後は、狸々と太鼓を伴ったお囃子隊とともにいざ天神社へ。出番の間はお天気もギリギリもってくれて、本当に幸いでした。翌日の「やまおろし」では、地元市議として一言ごあいさつの場を頂戴し、令和5年度の組長補佐を仰せつかったことなども含め、組の皆さまのご指導、ご鞭撻を引き続き賜りながら、今後も地域のために尽力してまいります旨、申し上げました。



▶ 出発を待つお神輿

◀ 狸々とともに天神社へ

宮下しんご 検索





大府の未来のために—市民満足度向上と持続可能な発展の両立を

3月定例会 一般質問 **たかばとくこ**

官民連携の一層の推進を

大府市が、これからも市民の福祉を維持し続けるには、確かな財政と経営基盤の維持が必須です。民間事業者の得意分野を生かし、任せること、市民はより良質なサービスを受け、市は支出を抑えた分、福祉により力を注げる「三方よし」の官民連携手法。すでに本市でも様々な取組がなされてきていますが、今後のさらなる推進についての考えを改めて伺いました。

市長からは、「様々な地域課題に対応するために、官民連携をさらに進めていく」との答弁がありました

が、積極的なPRと調整役として、「ワンストップ窓口を設置しては」との提案には、「企画広報課がすでに実質的な役割を果たしている」との回答に止まったことから、窓口を担っている表示がどこにもないことを改めて指摘しました。

また、13の施設・施設群で運用されている指定管理者制度についても、期間を区切ったの公募に対して1団体しか手が挙がらない、担い手が変わるリスク等の課題認識を質しました。答弁は、「課題がないわけではないが、契約期間ごとに直営と比較検討している」との内容にとどまり、「委託料が不十分ではないか」

との世論にも言及し、今後の課題としました。

駅周辺のまちづくり

大府駅、共和駅周辺の人流データ、子育て・生活利便施設の誘導、大府駅の自由通路整備、推進体制について質しました。自由通路については、「課題と認識しており、架け替え等の機会があれば、屋根の設置も考えたい」と答弁。リニア時代に向け、全国3番目の名古屋・中京経済圏で大府市が存在感を出すためにも未来への投資として重要な施策であり、引き続き注視していきます。

前進。校内適応指導教室を、「校内教育支援室」に改め、支援員が配置されます。4年前に指摘した置き勉ロッカーの不足は、学校からの要望もあって対応を進めており、5年度も3校で整備予定。教員負担軽減と保護者への確実な連絡のためのデジタル化推進は、アプリの利用状況を検証し、効果を測って改善していくとの考えを確認しました。

そのほか、高齢者施策や平和事業、若者政策、保育の質などを質疑し、コロナでダメージを受けた市民生活を置き去りにしないよう、市当局の引き続きの奮闘を求めました。

◆障がい者のスポーツ参加促進

市のスポーツ推進計画を見ると、障がいのある人のスポーツ参加機会が不十分との課題認識があり、促進のために具体的取組を行うとしています。「5年度は県外研修でユニバーサルスポーツを学び、ニュースポーツフェスタや出前講座で実施していく」との考えが示され、競技用車いす体験やポッチャのサークルなどの市民活動もあるため、協働を進めることも提案しました。

◆より良い学校生活のために

たかばとくこが12月に一般質問で取り上げた不登校支援が、大きく

「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂—どうなる「いじめ対策」「校則」etc..

3月定例会 一般質問 **宮下しんご**



大幅な改訂、内容の増強—本市はどう対応するのか

かつては生徒指導の理論や考え方、指導方法などについて網羅的にまとめられた基本書がなく、長らく現場判断で行われていました。そのため、学校間、教員間の共通理解に基づく組織的、体系的な生徒指導が必要であるとして、文科省の有識者会議での議論を経て2010年3月に出されたのが、「生徒指導提要」です。それから12年、新たな法律や制度だけでなく、子どもたちを取り巻く環境や社会情勢も大きく変化。より

多様化、複雑化した生徒指導の課題に対して柔軟に対応するべく、内容が大幅に変更、増強された改訂版が昨年12月に公開されたことを受け、本市学校の生徒指導にも適切に反映させるために、今後どのように取り組むのかを尋ねました。

いじめ対策については、「学校の教育的指導だけでは、解決が難しいことも多い」ことから、「学校だけでなく保護者も含めた組織的な対応が必要」としたうえで、「すべての児童生徒がいじめをしない人に育つことを支える視点が大切である」との認識が答弁で示されました。

また、いわゆる「ブラック校則」

問題への世間の注目度の高さから、マスコミにも大きく取り上げられた校則については、改訂版で示されたウェブサイト公開などの対応を確認し、各学校のウェブサイトで校則を公開する準備が進められていることが、教育部長の答弁で明らかになりました。

また、校則に対して意見表明することや、その見直しに参画することによる教育的意義についても見解を質したところ、答弁では、「主権者意識を育てるために、校則づくりの当事者として学校の活動に参画することは重要な学びの機会」との認識が示されました。

総務委員会

令和5年度 予算審査

◆定年引上げへの対応

生産年齢人口は今後も、国全体で縮小が続き、深刻かつ慢性的な働き手不足になることが確実な状況で、本市としても当然かつ不可欠な備えであることに理解は示しつつ、組織の新陳代謝とどう両立するかを質疑しました。再質問では、「勤務延長型特例任用」についての想定を改めて尋ね、制度運用による影響の大きさを慎重に鑑み、例外的かつ限定的な手段として抑制的な運用にとどめ

ることが、健全な新陳代に基づく組織の活力維持には欠かせない旨、討論でも重ねて指摘しました。

◆大韓民国 洪城郡との交流事業

ともに「健康都市連合」加盟団体という縁からスタートした国際交流であることから、令和5年度に予定されている訪問団受入れの位置づけについて質問し、答弁では、「都市間交流協定締結に向け、交流を一段と活性化するための重要ステップ」との見解が示されました。健康都市としての施策に関連する健康未来部や産業振興部等とのビジョンの共有および連携についても考えを尋ねた

ところ、文化交流課長は、「全庁的な動きを共有する中で、それぞれの部署でどんな可能性があるかを検討し、将来の交流につなげていきたい」との意向を明らかにしました。

◆プラスチック資源の一括回収化

プラスチック資源の質を引き続き適切に維持するために、年度を通じた継続的な啓発にどう取り組むか、考えを質しました。環境課長からは、これまでの広報手段のほか、新たに導入する分別アプリのお知らせ機能や、SNSでの情報発信も活用するとの答弁がありました。